

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	宮島学園北海道ファッション専門学校
設置者名	学校法人 宮島学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾・家政 専門課程	服飾研究科	夜・通信	2,145 時間	240 時間	
	服装総合科	夜・通信	1,464 時間	160 時間	
	販売速成科	夜・通信	780 時間	80 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.miyajima-fashion.com/disclosure

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮島学園北海道ファッション専門学校
設置者名	学校法人 宮島学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.miyajima-fashion.com/disclosure>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前衆議院議員	令和2年5月30日～ 令和6年5月29日	組織運営体制の チェック機能
非常勤	社会福祉法人 理事長	令和2年5月30日～ 令和6年5月29日	組織運営体制の チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮島学園北海道ファッション専門学校
設置者名	学校法人 宮島学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>年度初めに各教科担当教員と、教育目標、年度の取り組み、業界が求めるニーズに適応できるよう年間授業計画を組み、全体のバランスを確認しながら授業計画書(シラバス)を作成。</p> <p>入学後のオリエンテーション等で、授業の目的、成績評価方法、認定基準を学生に説明。またホームページで公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.miyajima-fashion.com/disclosure
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>評価は前後期、それぞれ教科毎に、学力評価(筆記試験、実技試験、課題作品、ノート提出)と、平常評価(受講姿勢、出席状況等)を加味し総合評価とし、「優」「良」「可」「不可」で成績評価を行なう。</p> <p>年度末に最終評価を行い、履修を認定している。</p> <p>認定に満たさない場合は、補習、再試験を実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各授業の評価を数値化し、(優=3・良=2・可=1・不可=0) 授業科目数で割り、1科目当たりの平均値を算出し、それを基にG P A分布図を作成、学生の相対的な位置を把握する。 学生への周知に関しては、入学後のオリエンテーションなどで説明。またホームページで公表する。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.miyajima-fashion.com/disclosure</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>年度末に卒業認定会議を実施する。 認定基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の最終評価が「可」以上である ・各教科総授業数の80%以上を履修している ・学費、諸費、その他の納入金が全額納入されている <p>全ての項目が基準を満たしていることを確認、卒業認定。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>http://www.miyajima-fashion.com/disclosure</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	宮島学園北海道ファッション専門学校
設置者名	学校法人 宮島学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.miyajima-fashion.com/disclosure
収支計算書又は損益計算書	http://www.miyajima-fashion.com/disclosure
財産目録	http://www.miyajima-fashion.com/disclosure
事業報告書	http://www.miyajima-fashion.com/disclosure
監事による監査報告（書）	http://www.miyajima-fashion.com/disclosure

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政分野		服飾・家政専門課程	服飾研究科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700時間 単位時間/単位	810時間	時間	1875時間	15時間 時間	
		2,700単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		6人	1人	6人	14人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 年度初めに各教科担当教員と、教育目標、年度の取り組み、業界が求めるニーズに適應できるよう年間授業計画を組み、全体のバランスを確認しながら授業計画書（シラバス）を作成。 入学後のオリエンテーション等で、授業の目的、成績評価方法、認定基準を学生に説明。またホームページで公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 評価は前後期、それぞれ教科毎に、学力評価（筆記試験、実技試験、課題作品、ノート提出）と、平常評価（受講姿勢、出席状況等）を加味し総合評価とし、「優」「良」「可」「不可」で成績評価を行なう。 年度末に最終評価を行い、履修を認定している。 認定に満たさない場合は、補習、再試験を実施している。 各授業の評価を数値化して、全授業科目の合計数をGPA分布図にして公表する。 学生の相対的な位置を把握する。

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>年度末に卒業認定会議を実施する。</p> <p>認定基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の最終評価が「可」以上である ・各教科総授業数の80%以上を履修している ・学費、諸費、その他の納入金が全額納入されている <p>全ての項目が基準を満たしていることを確認、卒業認定。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>本校における学修支援は、主に各学科における担任と教務課が協働して実施している。学生の学修に係る支援は、履修に関する指導・相談の他、学生生活や奨学金に関する事等、多岐にわたっている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	0人 (%)	7人 (87.5%)	1人 (12.5%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>フリーフレアフライブ、札幌白衣、(株)上野商会、(株)クオリア、リアルモンキー、飲食業界、警備業界</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>入学当初から担任と就職課の3者面談を行い、校内企業説明会や授業科目である校外実習(インターンシップ)等を通じ、卒業後の早期離職を防ぐことも見据え、ミスマッチの無い就職活動を実施している。</p>			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任による定期的個人面談で学生状況の把握。保護者との連携。 学力不足、単位不足の学生に関しては補習を実施。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政分野	服飾・家政専門課程	服飾研究科	○	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800時間 単位時間/単位	540時間	時間	1245時間	15時間	時間
		1,800単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	40人	0人	6人	14人	20人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>年度初めに各教科担当教員と、教育目標、年度の取り組み、業界が求めるニーズに適應できるよう年間授業計画を組み、全体のバランスを確認しながら授業計画書(シラバス)を作成。</p> <p>入学後のオリエンテーション等で、授業の目的、成績評価方法、認定基準を学生に説明。またホームページで公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>評価は前後期、それぞれ教科毎に、学力評価(筆記試験、実技試験、課題作品、ノート提出)と、平常評価(受講姿勢、出席状況等)を加味し総合評価とし、「優」「良」「可」「不可」で成績評価を行なう。</p> <p>年度末に最終評価を行い、履修を認定している。</p> <p>認定に満たさない場合は、補習、再試験を実施している。</p> <p>各授業の評価を数値化して、全授業科目の合計数をGPA分布図にして公表する。</p> <p>学生の相対的な位置を把握する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>年度末に卒業認定会議を実施する。</p> <p>認定基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の最終評価が「可」以上である ・各教科総授業数の80%以上を履修している ・学費、諸費、その他の納入金が全額納入されている <p>全ての項目が基準を満たしていることを確認、卒業認定。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>本校における学修支援は、主に各学科における担任と教務課が協働して実施している。学生の学修に係る支援は、履修に関する指導・相談の他、学生生活や奨学金に関する事等、多岐にわたっている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	2人 (22.2%)	7人 (77.8%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) フリーフレアフライブ、パワーボム、(株)ライトオン、(有)キャピタル、(株)フルテック、IT業界			
(就職指導内容) 入学当初から担任と就職課の3者面談を行い、校内企業説明会や授業科目である校外実習（インターンシップ）等を通じ、卒業後の早期離職を防ぐことも見据え、ミスマッチの無い就職活動を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項） 年度当初2年次在学者10人のうち1人は、途中休学し次年度卒業予定となったため卒業生数に含めず。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による定期的個人面談で学生状況の把握。保護者との連携。 学力不足、単位不足の学生に関しては補習を実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政分野		服飾・家政専門課程	販売速成科	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	900時間 単位時間/単位	360時間	時間	525時間	15時間 時間	
			900単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		3人	0人	6人	14人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年度初めに各教科担当教員と、教育目標、年度の取り組み、業界が求めるニーズに適應できるよう年間授業計画を組み、全体のバランスを確認しながら授業計画書（シラバス）を作成。</p> <p>入学後のオリエンテーション等で、授業の目的、成績評価方法、認定基準を学生に説明。またホームページで公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>評価は前後期、それぞれ教科毎に、学力評価（筆記試験、実技試験、課題作品、ノート提出）と、平常評価（受講姿勢、出席状況等）を加味し総合評価とし、「優」「良」「可」「不可」で成績評価を行なう。</p> <p>年度末に最終評価を行い、履修を認定している。</p> <p>認定に満たさない場合は、補習、再試験を実施している。</p> <p>各授業の評価を数値化して、全授業科目の合計数をG P A分布図にして公表する。</p> <p>学生の相対的な位置を把握する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>年度末に卒業認定会議を実施する。</p> <p>認定基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の最終評価が「可」以上である ・各教科総授業数の80%以上を履修している ・学費、諸費、その他の納入金が全額納入されている <p>全ての項目が基準を満たしていることを確認、卒業認定。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>本校における学修支援は、主に各学科における担任と教務課が協働して実施している。学生の学修に係る支援は、履修に関する指導・相談の他、学生生活や奨学金に関する事等、多岐にわたっている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 (1%)	1人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>一般事務</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>入学当初から担任と就職課の3者面談を行い、校内企業説明会や授業科目である校外実習（インターンシップ）等を通じ、卒業後の早期離職を防ぐことも見据え、ミスマッチの無い就職活動を実施している。</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等))
(備考) (任意記載事項) 年度当初1年次在学者5人のうち4人は修了時本校服装総合科2年次へ転科の為、卒業生数に含めず。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による定期的個人面談で学生状況の把握。保護者との連携。 学力不足、単位不足の学生に関しては補習を実施。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
服飾研究科 1 年次	130,000 円	700,000 円	165,000 円	
服装総合科 1 年次	130,000 円	700,000 円	165,000 円	
販売速成科	130,000 円	700,000 円	165,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.miyajima-fashion.com/disclosure		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめ教育活動や環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより業界や企業、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行う。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
司法書士	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日	学校運営に関する 専門家
会社 役員	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日	就職先企業 卒業生
社会福祉法人 理事	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日	業界関係者
会社 役員	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日	町内会長
会社 役員	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日	学園評議員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.miyajima-fashion.com/disclosure		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.miyajima-fashion.com/disclosure
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	宮島学園北海道ファッション専門学校
設置者名	学校法人 宮島学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		一人	一人	一人
内 訳	第Ⅰ区分	一人	一人	
	第Ⅱ区分	一人	0人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				一人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当し

たことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科 を含む。）及び専門学校（修業 年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科 を含む。）及び専門学校（修業 年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。